同和問題シリーズ

▷291

本音で語り合える仲間づくり

～江山中学校の取り組み～

地域のみなさんとの話し合い

自分の思いを・・・

江山中学校の同和教育は、仲間と連帯して部落差別解消に取り組む生徒の育成をめざしています。そして、めざす生徒の姿として、「自分の思いを、自分の言葉で、自分なりに語る」と「人の思いをしっかり聞ける」の二つの目標を掲げています。

しかし、日常の生徒たちのようすを、言葉づかいからみても、「文章」ではなく、「単語」で会話するなど、自分の思いを相手にうまく伝えることができない生徒が増えています。そして、その原因として学校や家庭、地域において話し合う機会が、減ってしまったからではないかと考えました。

自分の思いを伝えることができないということは、誤解を招く原因にもなり、それによって、よい人間関係をつくることがむずかしくなります。

このような生徒の実態から、お互いに本音で語り合える真の仲間づくりをめざし、さまざまな場面で話し合う機会を設けるようにしました。

ここでは、特に一年生の取り組みについて紹介します。

身近な人からの聞き取り

生徒たちにとって、部落差別が見えにくくなっている現在、部落問題を一人ひとりが解決していかなければならない身近な課題としてとらえさせるために、一年生は、六月に「身近な人からの聞き取り学習」に取り組みました。

「部落差別」「地区進出学習会」について、もっとも身近な存在である家族と話し合ったことで課題意識は強まり、また、学級でそれぞれの思いを話し合ったり、意見を出し合ったりしたことで、課題解決へ向けての連帯感が生まれました。そして、七月七日には、学習のまとめとして、六人の地域の方々を講師として学校に招き、話し合いました。

最初に、生徒たちが学習してきたことを聞いていただき、それに対するアドバイスや、部落差別解消に向けてどのような取り組みをされているのかなど、熱い思いを語っていただきました。

強くたくましい子どもたちを

今回の取り組みを通して、生徒の主体的な発言や姿勢が見られるようになり、めざす姿にやや近づいた面もありましたが、まだまだ課題も残っています。

これからも学校、家庭、地域が連携をとりながら、「部落差別を許さない、なくす。」という心を持った、強く、たくましい子どもたちを育てていきたいと考えています。